

2・3階展示室

美術館
だより

Vol.184

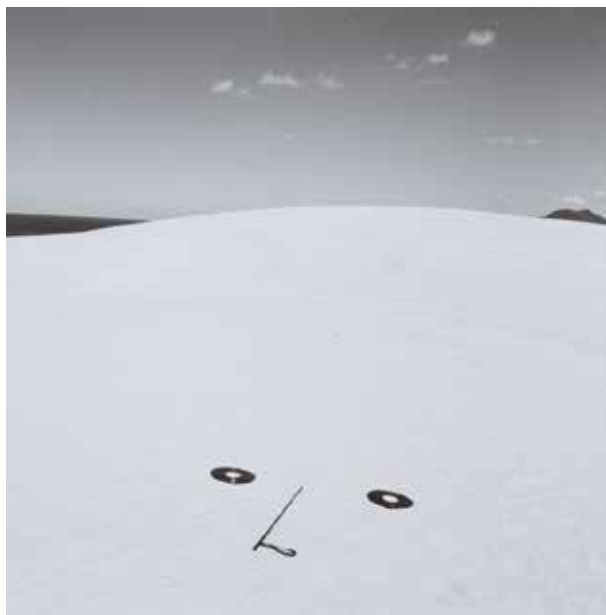
植田正治の1980年代 砂丘、ふたたび

2024年6月15日(土) - 9月8日(日)

「画家とちがって、写真家は、どんな世代であっても、“過去”に足踏みすることは、消滅につながる。“今”が撮れる“生臭さ”が、いくつになっても必要なのだ。」とかつて記していた植田正治が、1983年、70歳になり突然ファッション写真を発表しています。鋭い時代感覚と感性が必要とされるファッションの分野への新たな挑戦でした。それでも、植田のイメージは高く評価され、その後も多くのファッションの仕事の依頼を受けています。この無謀ともいえる挑戦には、植田自身が決して語ることのなかった背景があります。

1983年3月、植田は妻の紀枝さんを亡くしています。病氣療養中ではあったようですが、回復を信じていた植田の無念さは、写真が撮れないほどだったようです。そんな植田を励まし、ふたたび写真を撮るように仕事を用意したのが、次男の充氏でした。アート・ディレクターの仕事をしていた充氏は、依頼による仕事であれば、植田の性格からして断ることなく、写真家としての意欲を取り戻してくれると考えたそうです。そして、植田のかつてのホームグラウンド、砂丘での撮影を提案したのです。戦後間もなく、自身のスタイルのひとつの完成形として、自信をもっていた浜辺や砂丘での演出写真から離れていた植田にとっては、30年の時を超えた砂丘での演出写真、まさにリバイバルでした。

植田は1980年代、ファッションをはじめ「仕事の写真」を多く手がけますが、同時に「自分の写真」を常に追い求めていました。今回の展示では、妻の死を乗り越えふたたび写真と真摯に向き合った写真家の姿を浮き彫りにします。



シリーズ〈砂丘モード〉より 1985年

【同時開催】1階D展示室 コレクション紹介展示

植田正治物語 — 写真するボク —

植田正治の生涯にわたる写真活動の軌跡を紹介しています。ぜひご覧ください。

問い合わせ先

伯耆町立植田正治写真美術館
TEL:0859-39-8000

メール : bijyutsukan@houki-town.jp

ホームページ : <https://www.houki-town.jp/ueda/>

■開館時間／10:00～17:00 (最終入館は16:30)

■休館日／火曜日 (祝日の場合は翌日)

町民の方は入館無料です。

(ご来館の際は免許証など住所のわかるものを提示してください)

無料招待券

— 本券を切り取ってご利用ください —

植田正治の1980年代 砂丘、ふたたび

2024年6月15日(土) - 9月8日(日)

※本券1枚ご持参で5名まで無料でご覧いただけます。
休館日：毎週火曜日(祝日の場合は翌日) ただし、8月13日は開館

伯耆町立植田正治写真美術館
伯耆町須村353-3 TEL:0859-39-8000